

平成 25 年度 物価指数研究会（第 2 回）議事概要

- 1 日 時 平成25年12月12日（木） 10：30～12：00
- 2 場 所 総務省 統計局 6 階特別会議室（616号室）
- 3 議 題 (1) 2015 年基準改定に向けた検討（品目関係）について
(2) 消費者物価指数の表章方法の検討について
- 4 出席者 (委 員) 美添座長、舟岡委員、宇南山委員、樋田委員
(統計局) 會田統計調査部長、井上調査企画課長、永島消費統計課長、栗原物価統計室長、山石首席分類銘柄情報官ほか
- 5 配布資料
書類番号 1 - 1 2015年基準改定スケジュール（案）
書類番号 1 - 2 2015年基準改定に向けた品目の見直しの検討（案）
書類番号 2 消費者物価指数の表章方法の検討

6 主な意見等

議題（1）

- 近年インターネットを利用したサービスが増えている。例えば、電子ブックは、ハードカバーの本とは商品として異質なものだと思われるが、追加品目の候補については、このようなものもカバーできるようにした方がよい。インターネットを利用したサービスについては、別途、調査し検討するのがよいと思われる。
→ 今回は、調査員調査品目の出回り状況調査に向けた追加品目の候補を先行して検討しているもの。インターネット価格のような全国統一的な価格については、総務省調査で把握する方向で検討中である。
- 家計調査品目とはどのような関係になるか。
→ 平成 27 年 1 月に予定される家計調査の収支項目分類の見直しと小売調査品目とは整合性がとれるように検討する。
- 耐久財や高額商品は、（購入頻度が少ない高額商品・サービスなどへの消費の実態を安定的に捉えることを目的としている）家計消費状況調査を利用するなど、家計調査とは別の手順でも消費状況を把握できるとよい。

- 家計調査特別集計の実施及び分析や銘柄規定などの困難だが大事な検討が行われていることについて、統計局から情報発信することも大事である。

議題（2）

- 表章方法に関するユーザー側の指摘としては、平成 17 年基準に戻してほしいとか、他の改善案を考案してほしいといったものがあるのか。
→ 例えば、一部の行政機関等では、品目を組み替えるなどして独自の指数を作成しているため、小数点以下の桁数を増やした指数を提供してほしいといった要望がある。
- 小数点以下の桁数を増やして公表しない理由としてはどのようなものがあるか。
→ 平成 22 年基準では、寄与度の合算が全体の変化率に合わないということを問題視して、端数の扱いを変更した。一方、平成 17 年基準までは公表値から計算していたため再現性はあった。整合性と再現性の 2 つをどう両立するかが課題である。例えば、正式系列は小数第 1 位までの表章として変えないにしても、ユーザー側に別の情報として出すという方法なども含め、諸外国の事例も参考にしつつ検討したいと考えている。
- 公式のメイン系列でなくてもよいので、イギリスのような形で小数点以下の桁数を必要に応じて公表可能になれば、ユーザーの利益にも資するのではないかと思う。
- 小数点以下の桁数分も精度があるものだと誤解があっても、かえってよくないかもしれない。その辺りに留意しつつ、ユーザーからの意見も聞いて検討するのがよいと思う。
- 小数点以下の桁数を増やして公表する場合、家計調査から作成されるウエイトの精度が担保できるか課題である。普通のユーザーにとっては小数第 1 位の表章で十分であり、小数点以下の桁数が増えるとかえって使いづらいかもしれない。一方、ヘビーユーザーが独自に計算したいということであれば、そのようなユーザー向けにイギリスのように別途情報提供すればよい話ではないか。
- どうしても端数処理を含めて合わせたい場合、お尋ねくださいとする方法もある。
- 例えば、ホームページ上に参考系列として小数点以下 3 桁の系列を公表するのが効率がよいかもしれない。
→ 今後の対応については、CPI を利用している関係機関の意見も聞いてさらに検討したい。

以上